第３回「言語学」課題

Greenberg(1963)は、世界の30言語に関して、他動詞文における動詞の位置に基づき基本語順を３タイプ（VSO＝Ⅰ、SVO＝Ⅱ、SOV＝Ⅲ）に分類しています。たとえば、基本語順と名詞-側置詞（「へ、から、まで」など空間的位置関係を表す語）の語順の関係を調査して、次のような結果を報告しています。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ |
| Noun-Adjective | 6 | 8 | 5 |
| Adjective-Noun | 0 | 5 | 6 |

(Greenberg 1963: p.85, Table 5)

Greenbergは、これらのデータに基づいて、世界の言語における語順に関して、偶然とは考えられない、明白な相関関係が見られると主張しました。

　しかし、調査した言語数が少ないこと、サンプルとして選ばれた言語に偏りがあることがあることが指摘されています。

　角田(20092: 280-306)では、世界の130言語を対象として、19項目にわたる語順の調査結果が報告されています。このデータに基づいて、Greenbergが行ったのと同様の分析作業、すなわち、各グループで次の作業をおこなってみましょう。

（ババゴ語を除外し、分類の対象を計129言語とする。）

ステップ１：次の(1)～(5)から１つを選び、基本語順との分割表を作成してみよう。

　　　　　　(1) 名詞-側置詞の語順、名詞-所有格の語順

　　　　　　(2) 名詞-形容詞の語順、名詞-関係節の語順

　　　　　　(3) 比較形-基準の語順、副詞-形容詞の語順

　　　　　　(4) 疑問詞の位置、ＷＨ語の位置

　　　　　　(5) 条件節の位置、目的節の位置

ステップ２：分割表に基づいて、主要部先頭と末尾言語の割合のグラフを描画してみよう。

ステップ３：調査した結果に基づいて、どんなことが言えるか考えてみよう。

ステップ４：調査と考察の結果をＰＰＴ６枚以内にまとめて、発表の準備をしよう。

①タイトル、日付、発表者名　　　　　　　②基本語順の分布表と棒グラフ

③語順Ａの分布表と棒グラフ　　　　　　　④語順Ｂの分布表と棒グラフ

⑤語順Ａと基本語順の分割表とグラフ　　　⑥語順Ｂと基本語順の分割表とグラフ

授業前日までに、グループ代表者が課題ファイルをメール添付で提出してください。

【作業上の注意点】

①角田データは、この授業のＷＥＢページからpdfファイル形式で入手できます。

　（ファイルを開くにはパスワードが必要です。）

②作業用Excelファイルも同じＷＥＢページからダウンロードできます。

　（ビビル語は「基本語順さまざま」とありますので、分析対象から除外します。）

③基本語順は、Excelファイルの第３列のデータを使用できます。

④名詞-側置詞の語順は、「プラス」、「マイナス」、「その他」、「なし」のどれかに分類します。

　データの記載が複数ある場合、先に記載されている値で分類します。ただし、たとえば「その他、プラス」となっている場合は、「プラス」に分類します。　疑問詞の位置に関しては、「文頭」「その他」「文末」「なし」に分類します。ＷＨ語の位置に関しては、「文頭」「その他」「平叙文型」に分類します。

⑤集計を終えたら、クロス分割表を作成します。その際、「その他」や「なし」を除外して、分割表を作成します。（集計する語順に応じて、総数や割合が異なります。）

　列に基本語順（Ⅰ＝VSO, Ⅱ＝SVO、Ⅲ＝SOV）、行には対象項目の語順タイプを書きます。

⑥次の表のように、基本語順ごとの割合（列割合）を計算します。

⑦割合の表に基づいて、棒グラフ（どちらのタイプでも可）を作成します。

（上のGreenbergの集計表を例にします）

表１　基本語順と名詞-形容詞語順のクロス分割表（割合）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | 計 |
|  N--A | 6(100%) | 8(62%) | 5(46%) | 19(63%) |
| A--N | 0(0%) | 5(39%) | 6(55%) | 11(37%) |
| 計 | 6 | 13 | 11 | 30 |

図１　基本語順と名詞-形容詞語順の分布

⑧集計データや割合の棒グラフを見て、どのような傾向があるか、比較してどのようなことが言えそうかを考えます。

（角田データの「プラス」とは日本語と同様に、（主要部末尾型）特徴を示すということ、「マイナス」は日本語と違って主要部先頭型の特徴を示す、という意味であることに注意してください。）